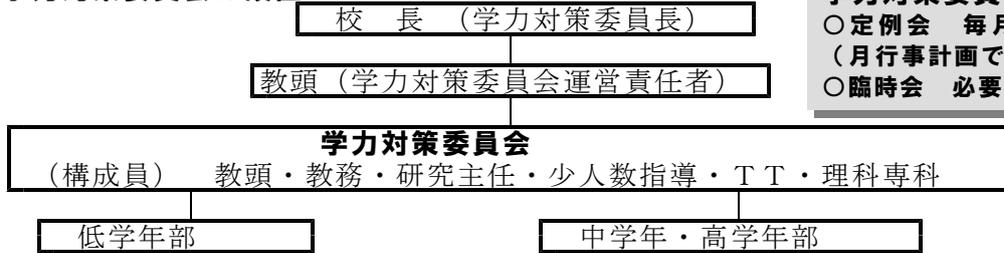


1 学力向上に向けた学校全体としての取組

学校全体で学力向上の取組を行うために、学力対策委員会を設置して、継続的に学力充実の状況の検討を行いながら、推進を図ってきている。特に、学力対策委員会での子どもたちの現状把握をもとにした具体的な対策が学校全体を効果的にリードし、学力の向上に役立てている。

(1) 学力充実のための組織体制

① 学力対策委員会の設置



学力対策委員会

- 定例会 毎月1回 放課後 (月行事計画で位置づける)
- 臨時会 必要な時に随時開催

県学力調査(ゆうチャレンジ)を行う中学年・高学年と低学年とを分けて、部会を設置する。

- ・学力対策委員会の定例会を毎月設けて、学力充実の取組の進捗状況を確認して、次の対策を考える。
- ・必要な時には臨時に開催する。

学力充実の取組の進捗状況確認方法

- ①単元の学習での習熟の状況と課題に対する対策の確認(国語、算数が中心)
- ②習熟学習のための「チャレンジタイム」(毎週5時間目)と「があっばタイム」(業間や朝自習)での取組状況の確認
- ③ゆうチャレンジの問題の活用状況(授業の中での活用状況や習熟のための演習問題としての活用状況)の確認
- ④家庭学習の取組の状況の確認
- ⑤校内研修のテーマである読解力向上の状況の確認

② 各学年に対する支援体制

授業づくりや問題の採点、個別指導などの支援、問題の準備等、各学年ごとに学力対策委員が支援を行う。

1・2年
TT担当

3年 特別支援教育担当

4年
少人数担当

5年
少人数担当

6年
教頭

③ 教科ごとの支援体制

算数と理科に関しては、教科の担当者が学級担任の支援を行う。

算数
TT担当・少人数担当

理科
理科専科

(2) 支持的な学級集団づくりの取組

学力の向上には、子どもたちが意欲をもって学習に取り組む学級づくりが重要になってくる。御船小学校では、学級一人一人の児童が意欲をもって取り組んでいくように、互いに支え合える仲間づくりに力を入れている。

子どもたち同士のつながりが深く、互いに助け合い、支え合う関係が育ったことで、学級をよくしていきたいという気持ちが育ち、学習面においても、学級全体でねばり強く取り組むことができている。



具体的な姿



厳しい状況に置かれている児童を中心に、互いに教え合える学習環境づくり

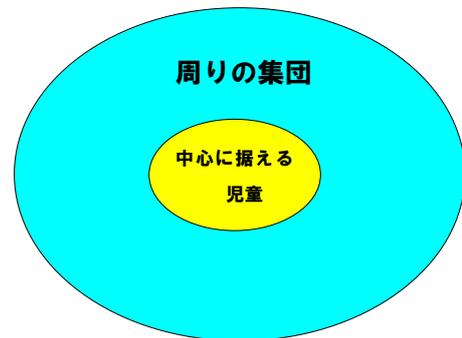
人権教育の推進でおかしいことをだましていない学級集団づくり

集団としてのつながりを深め、いろんなことに前向きに取り組むことができる学級集団づくり

仲間づくりの取組

(具体的な手だて)

- ① 年度初めに学級集団での厳しい状況にある児童を明らかにして、集団づくりの中心に据えていく。
- ② 互いに支え合い、助け合うことを目指した学級目標を掲げながら、自主的活動に取り組んでいく。
- ③ 授業の中で、学習班を位置付けて、助け合いながら学習に取り組んでいく。
- ④ 学級活動等を通して、学級の中起こる様々な問題に向き合い解決し、おかしさを許さない集団づくりに取り組んでいく。
- ⑤ 運動会や学習発表会（5年・6年は集団宿泊学習や修学旅行）などを生かして集団づくりに取り組んでいく。
- ⑥ 日常の教職員での児童理解の時間（情報交換会や人権教育推進委員会等）に、学級集団のつながりがどう深まっているのかを確認していく。



中心に据えている児童を囲む周りの集団が、支え合い、助け合える集団に育つように取り組む。

(3) スムーズに学習を進めるための学習訓練の徹底

学習の質を高め、協力して取り組んでいくことができるように、授業の中で学習訓練に力を入れている。子どもたちは、繰り返し行うことで、スムーズに学習に取り組むことができるようになってきている。



「発表の仕方」「聞き方」の約束の徹底



課題に対しての自力解決の取組



課題解決のためのグループ学習（隣同士や小グループによる集団解決学習）の推進

(4) 学習内容の習熟のための手だて

学習したことが子どもたちに確実に力になっていくような授業の進め方や習熟の手だてを考えて取り組んでいった。授業においては、課題を解決するだけでなく、できていない問題について繰り返し学習する機会をもうけた。また、ゆうチャレンジや全国学力・学習状況調査を学習内容の定着のための絶好の機会として位置づけて、※計画的な習熟のための取組も行っている。子どもたちも繰り返すことで、学習した内容が身に付いているようである。

※計画的な習熟のための取組

これまで、実施されたゆうチャレンジの問題にたくさん触れていきながら、計画的に習熟できるように取り組んでいる。

- ①授業の中で、ゆうチャレンジの問題を発展問題等に活用して、取り組んでいく。
- ②チャレンジタイム（毎週月曜日の6時間目）等の習熟のための時間に集中的に問題を解いていく。
- ③単元の内容に沿ったゆうチャレンジの問題を家庭学習の課題として出して解かせていく。
- ④全国学力・学習状況調査や県学力調査前の一定期間に集中的にゆうチャレンジの問題等を解いて問題に慣れたり、習熟を図ったりする。

① 学習指導の工夫

これまで出されたすべての「ゆうチャレンジ」の問題を前年度だけでなく、それ以前の学年の問題も含め、※1日常の学習指導の中で活用する。

学習指導－課題解決－評価－見直しの指導－課題解決－評価・・・の繰り返し指導を行って、習熟の徹底を図る。

算数は、少人数指導を行う担当者が事前に指導方法等について検討を行い、本時のめあてに迫るための手だてや一人一人にきめ細かに指導を行うための方法について※2共通理解をして取り組む。

1 単位時間の学習で、個人－グループ－全体という流れで、課題解決を行い、子どもたち一人一人が課題に向き合い、進んで解決を図っていくように取り組む。

※1 日常の学習指導の中で活用事例

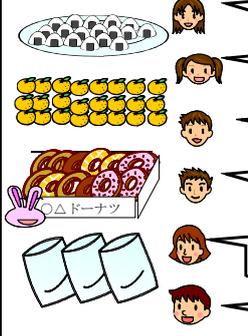
「ゆうチャレンジ」(熊本県学力調査)の問題を活用した授業例

教科等 (平成18年度小学校3年算数⁴)

指導のねらい | 除法を用いて問題を解決する力を育成する。

【問題分析の例】	
○問題解決に必要な知識・技能等	除法が用いられる場合に理解していること。 (除法と商が1位数である) 除法の計算ができること。 余りの意味を理解していること。
○知識・技能の活用	身の回りの数量に関心を持って、除法を使って課題を解決しようとする態度を育てること。
○思考力・表現力の育成	一人一人に同じ数ずつ配るために必要なアメの個数を求める活動を通して、除法の式を成り立たせる数量の関係を考える力を育てること。
○実生活との関連	除法を使う場面を含んだ挿絵等を用いることで、具体的な場面を除法の式で表したり、除法の式の意味をよみとる力を育むこと。
○その他	

【問題を活用した授業の例】

主な学習活動	指導上の留意点
 <p>おにぎりは18こできたよ</p> <p>みかんは、24こあるわ</p> <p>ドーナツは12こだ。</p> <p>ふくろが3まいあったよ。</p> <p>なに、い 何 か入れるのに、よさそうね</p> <p>いくつももらえるかな。 たの しみだな。</p> <p>①問題から本時の課題を把握する。</p> <p>②課題づくりの方法を知る。 わり算を使う問題を考え発表する。</p> <p>③作った問題を分別し、それぞれの問題を解く式を考える。</p> <p>④友だちがつくった式だけを見て、どんな問題を解く式かを考え、発表する。</p> <p>⑤身の回りのわり算を使った問題を考える。</p>	<p>①児童の多様な考えが生まれる具体的な場面の絵を提示し、除法を活用しようとする意欲を高める。</p> <p>②問題の作り方を、児童の意見をもとに整理し、一人一人の児童が問題づくりに取り組めるようにする。</p> <p>③一人一人の発想のよさを認め、類似している問題を、児童と一緒に考察しながら、1つにまとめる。</p> <p>④式を読む力を育て、式が具体的な場面を表していることを理解させる。式を読む活動を通して、除法を用いて問題を解決する力を高める。</p> <p>⑤多様な発想を認め、除法を活用しようとする態度を育てる。</p>

【平成18年度ゆうチャレンジ】3年生算数問題から】

※2 共通理解

単元ごとに必ず少人数担当者と担任で話し合いをもって、共通理解を図りながら授業に入るようにしている。

共通理解の内容

- ① 毎時間の授業における評価基準の確認
- ② 少人数のグループの編成（単元ごとにグループを入れ替える）
- ③ それぞれのグループに合わせた教材の確認（習熟度に合わせる）
- ④ 各グループに合わせた指導方法の確認（習熟度に合わせる）

② 習熟学習の手だて

1 ゆうチャレンジに向けて

ゆうチャレンジの問題を単元の学習の最後に習熟の学習として取り組む。

家庭学習や※1スキル学習の時間にゆうチャレンジの問題を解いて、定着を図る。

ゆうチャレンジの同じ問題を何度も解くことで、問題に慣れていくようにする。

すでに学習した単元のまとめテストや※2習熟のための問題を使いながら、定着していない内容を明らかにして、何度も繰り返し問題を解いていく。

※1 スキル学習

- | | |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> ①スキル学習の時間の設定 ○チャレンジタイム（毎週月曜日6時間目） ○朝自習の時間 ○があっぱタイム（業間の時間） | <ol style="list-style-type: none"> ②スキル内容（計算や漢字中心） ○スキル問題集（学校備え） ○教師の自作問題 ○かみっ子問題（上益城で作成） |
|--|---|

2 全国学習・学力状況調査に向けて

PISA型読解力の力をつけるための問題をたくさん解くことで、活字を通して問題文の意図を正確に読み取るとともに、自分の考えを持って表現する力を身に付ける。

長期休業期間中の家庭学習用に、※課題を系統的・計画的に児童に与え、既習内容(事項)の定着を図っていく。

※ 課題の例

- ① 教師が自作等の問題を集めての問題集
- ② かみっ子問題（漢字）
- ③ ゆうチャレンジの問題をプリントしてもの
- ④ PISA型読解力を育てるコピー可能な国語問題（市販のもの）
- ⑤ 学校に常備してある基礎・基本を定着させる習熟問題（算数・国語）